

春風秋霜

5月号

平成30年5月1日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 言葉は言霊

最近読んだ本に、「言葉は言霊」という言葉がありました。プラスの言葉を口癖にすると、人生はよい方に変わるということです。口癖にするほど言葉を発すれば、言葉に責任を持つようとする意識が無意識に働くということです。静岡県出身の脳科学者である池谷裕二教授（東京大学大学院）は、講演の中で『脳は騙されるので、作り笑いでも人は元気になる』という話をしています。

鈴木市長戦略部長からは、「精神的に強い人が絶対にしない10のこと」を教わりました。その中には、「ネガティブな人とは付き合わない」「自分を哀れまない」「他人を恨まない」「悲観しない」など、マイナスな思考や言葉を避けるとありました。

本心とは異なった言葉や表情にも脳が反応するならば、プラスの表情や言葉を大切にすることが自分のためになるということです。また、表情や言葉から脳が影響を受けるのなら、その影響は自分だけでなく周りにも与えているはずです。私たちは、そのことを自覚し、自分の言葉や表情に留意しなくてはなりません。

2 5月は体調に留意を

新年度も1ヶ月が過ぎ、子供たちは学校生活に慣れてきたと思います。しかし、誰もが少なからず緊張した生活を送ってきたはずで、中学校は市内総体や修学旅行の準備と、5月になっても大変忙しいと思います。そのため、疲れの蓄積が体調に影響し始めるのも5月だと思います。子供たちの変調には十分な留意が必要です。また、体調不良が不登校の引き金にもつながるので、気になる子へは早めのかかわりをお願いします。

教職員においては、働き方改革が叫ばれ、部活動のあり方にも注目が集まっています。保護者の求めもあり、国のガイドライン通りに部活動を行う難しさは十分に理解していますが、効率的な練習に努め、子供のためにも教職員自らのためにも、時間外勤務を減らす努力をお願いします。

3 市子ども会連合会（市子連）総会に参加して

市子連の総会が4月20日（金）に行われました。総会には100人を超す参加があり、4年前に比べ参加者は倍増しています。島田市では、各地区子供会の内108の子供会が市子連に参加しています。市子連に加盟している子供会数が増えているわけではないのに、総会参加者が増加している訳は、市子連のよさが浸透してきたからだだと思います。

川根町で行われる親子釣り大会も、地元の皆さんの協力もあり、40cm以上の大物を釣り上げる人や、小物のブルーギルを数十匹釣り上げる親子など、釣りそのものを楽しむだけでなく、外来魚種の駆除にやりがいを感じている人もいます。また、フェスタ子ども会では、防災運動会と連携するなど、楽しみだけでなく役立つ内容もあり、参加した方々から喜ばれています。子供たちにとって他校の子供たちと触れ合うよい機会になっていますから、今年度の市子連事業を子供たちに紹介していただけたらと思います。

親子釣り大会・・・6月17日（日）野守の池

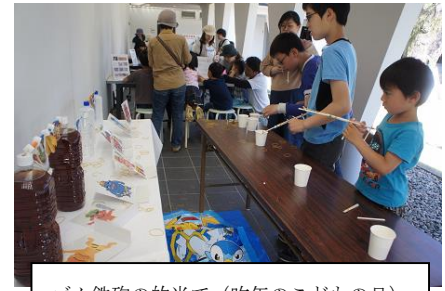
フェスタ子ども会・・・7月28日（土）ローズアリーナ

4 子供関連の事業について

新年度がスタートし、教育委員会や民間が主催する子供向けの事業が動き出しています。「しまだガンバ」は38人の応募があり、5月19日から活動が始まります。初倉地区で行われる放課後子ども教室「フレンズクラブ」は、現在募集中です。年間30回の教室が開催され、楽しい体験もたくさん計画されています。

博物館では、こどもの日に「こどもの日の集い」が行われます。チェックポイントを回ると参加賞がもらえるトレジャーハンターや、スーパーボールすくい、ジャンボシャボン玉作りもあります。昭和のゲームも各種用意され、子供向けワークショップにも参加できます。うれしいことにこの日は、観覧無料ですので、親子での来館がお勧めです。

この外にも、ジュニエコ（ジュニア・エコノミー・カレッジ）も昨年と同様に計画されています。ジュニエコは昨年、キャリア教育として文部科学大臣賞を受賞した素晴らしい取組です。近々、募集案内があると思いますので、子供たちへの紹介に協力をお願いします。



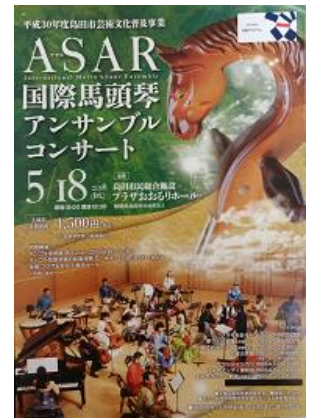
ゴム鉄砲的的当て（昨年のこどもの日）

5 アサル国際馬頭琴アンサンブルコンサートの開催について

日時 5月18日（金）18：30 開演

場所 プラザおおるりホール 入場料 1500円

これは、世界的奏者が集まる貴重なコンサートです。島田市とモンゴル国のこれまでの交流が縁で、東京公演で来日した奏者を招くことができました。池谷学校教育課長は、馬頭琴の演奏だけでなく、ホーミーやオルティンドーは大変珍しい発声法のため、一度は聞くべき価値のあるものだと話しています。多くの方の来場をお願いします。



肘かけ椅子

太田 直樹 文化課長

「文化財とまちづくり」

～箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川～

大井川の川留めや徒歩渡しは、島田宿・金谷宿に富をもたらしました。川留めにより松尾芭蕉をはじめ多くの文人墨客が宿に滞在する事で、東西の文化交流が盛んに行われ、島田髷や帯祭りなど東海道の他の宿場にはない独特の「島田にしかない」文化を育んできました。

東海道最大の難所として「越すに越されぬ」と唄われ、全国にもその名が知られた大井川の川越しは、国指定史跡「島田宿大井川川越遺跡」として川会所や番宿などが復元されるなど、歴史的・文化的財産として受け継がれてきた、東西交通の結節点にある貴重な交通遺跡です。

現在、国ではこのような貴重な文化財を生かした地域振興を促すため、文化財保護法を改正し、国指定文化財を活用しやすいよう、市町村に権限を移譲しながら、保護中心から保存と活用の両立を目指す取り組みが進められています。

「島田宿大井川川越遺跡」も、これまでは文化財の保護という観点から史跡整備を進めてきましたが、保護を基本としながらも、文化財を文化的観光資源として活用する「まちづくり」や、「賑わいの創出」に向けた取り組みを始めなければなりません。

市民や観光客の皆さんが「また行ってみたい！」と思うような「島田宿大井川川越遺跡」を目指して頑張りたいと思います。